

令和4年度塩竈市水道事業報告書

1 概 況

(1) 総括事項

イ. 給水状況

本年度の年間総配水量は、大倉ダム水系の 6,472,461 m³及び仙南・仙塩広域水道用水供給事業からの受水量 1,022,993 m³の合計 7,495,454 m³ (20,535 m³/日) で、前年度 7,387,471 m³ (20,240 m³/日) に比較して 107,983 m³ (295 m³/日) 1.46%増加しました。また、一日最大配水量は 24,887 m³ (1月27日) で、前年度 22,208 m³に比較して 2,679 m³ (12.06%) 増加しました。

年間有収水量は、6,082,961 m³ (16,665 m³/日) で、前年度 6,160,934 m³ (16,879 m³/日) に比較して 77,973 m³ (213 m³/日) 1.27%減少しました。

年度末における使用栓数は 26,287 栓で、前年度 26,302 栓と比較して 15 栓減少し、有収率については、81.16%で、前年度 83.40%に比較して 2.24 ポイントの減となりました。

ロ. 建設改良の状況

○ 改良事業

主な改良工事として、桜ヶ丘、多賀城市笠神一丁目地内の計 2 路線で口径 50mm、総延長 95.6mの配水管布設工事の施工及び水道施設立入防止柵設置工事を行いました。また、水道メーター及び作業車、庁舎電話機器を購入しました。

なお、錦町・旭町地内の計 2 路線については、翌年度へ繰越しました。

○ 第7次配水管整備事業

本事業は、ライフラインの強化と濁水発生箇所の解消及び有収率の向上と重要路線の耐震化を目的に、水道の安定供給を図るものです。なお、実施期間は令和元年度から令和6年度までの6か年計画とし、給水区域内の布設後40年以上経過した配水管の布設替えを実施する事業です。本年度は、尾島町、梅の宮、北浜二丁目、栄町地内の計4路線で口径75～300mm、延長621mの配水管布設工事を行いました。

○ 第2次老朽管更新事業

本事業は、国の交付金制度（生活基盤施設耐震化等交付金）を活用し、ライフラインの強化と、管路の耐震化を目的に、令和元年度から令和5年度までの5か年計画で給水区域内の布設後40年以上経過した送配水管の布設替えを行い、安定供給を図る事業です。本年度は、字庚塚地内の1路線で口径250mm、延長341.5mの送水管布設替工事と字庚塚地内の舗装復旧工事を行いました。

ハ. 財政状況 * () 内は税込決算数値

本年度の収益的収入は、1,526,395,448 円 (1,668,084,721 円) で、前年度の 1,551,211,347 円 (1,694,672,920 円) に比較して 24,815,899 円 (1.6%) 減収となりました。

本年度の収益的支出は、1,373,471,273 円 (1,488,049,652 円) で、前年度の 1,315,145,365 円 (1,373,939,034 円) に比較して 58,325,908 円 (4.43%) 増加しました。これは、営業外費用で 6,831,004 円、特別損失で 65,061,206 円減少したものの、営業費用で 130,218,118 円増加したことによるものです。

これらの結果、本年度は 152,924,175 円の純利益を生じ、利益剰余金は 1,947,665,857 円となりました。

本年度の資本的収支は、総収入 257,642,447 円 (うち仮受消費税 675,100 円) に対し、総支出 720,583,865 円 (うち仮払消費税 27,719,412 円) となり、収入不足額 462,941,418 円は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額 27,044,312 円、当年度分損益勘定留保資金 402,501,454 円、減債積立金 33,395,652 円で補てんしました。

二. 経営指標に関する事項

令和 4 年度決算における経営成績について、経営の健全性を示す経常収支比率は、有収水量の減少に伴う給水収益の減少及び電気計装設備、管路更新などに伴う費用の増加等により前年度比 13.33 ポイント減の 110.74%となりましたが、健全経営の水準とされる 100%を上回っています。また、料金水準の妥当性を示す料金回収率は、前年度比 14 ポイント減の 104.50%となりましたが、事業に必要な費用を給水収益で賄えている状況とされる 100%を上回っています。

一方、償却対象資産の減価償却の状況を示す有形固定資産減価償却率は前年度比 1.8 ポイント増の 49.48%となり、法定耐用年数を経過した管路延長の割合を示す管路経年化率は、前年度比 1.74 ポイント増の 40.48%と施設の老朽化が進んでおり、当該年度に更新した管路延長の割合を示す管路更新率は前年度比 0.37 ポイント減の 0.41%と減少しております。これは、未だ更新需要のピークを迎えていないこと、大口径の基幹管路の更新を優先的に実施しているためであり、将来の更新需要に備え、現在の経営状況を維持しつつ、引き続き計画的な施設更新を行ってまいります。

< 経営指標の推移 >

	H30	R1	R2	R3	R4
経常収支比率	121.61%	121.64%	124.94%	124.07%	110.74%
料金回収率	117.05%	116.71%	116.93%	118.50%	104.50%
有形固定資産減価償却率	50.61%	51.37%	52.23%	47.68%	49.48%
管路経年化率	34.43%	34.49%	37.09%	38.74%	40.48%
管路更新率	0.85%	1.04%	1.07%	0.78%	0.41%

